

皮膚及花柳病讲义錄

陸軍二等軍醫正 小池正晁述

皮膚及花柳病講義錄

陸軍軍醫團發行

大正十四年二月十日印刷

大正十四年二月十五日發行

編輯兼
發行者

青木 袈 袈 美

東京市澁谷區千駄ヶ谷五百十六番地

印刷者

小林 又 七

東京市麴町區隼町四番地

電話四谷二、八八六番

印刷所

小林又七印刷所

東京市麴町區隼町四番地

電話青山四、四一〇番

發行所

陸軍省醫務局 內

陸軍 軍醫團

振替口座東京一七六五〇番

皮膚及花柳病講義錄目次

陸軍二等軍醫正 小池 正 晁 述

第一章	皮膚病ノ診斷ニ就テ	一
第一	病歴ニ就テ	一
第二	全身ヲ診察スルコト	二
第三	瘡皮ニ就テ	三
第四	皮膚ノ色調ニ就テ	五
第五	皮膚ノ隆起ニ就テ	六
第六	潰瘍ニ就テ	七
第七	發疹ノ新舊鑑別ニ就テ	七
第八	觸診ニ就テ	八
第九	結 論	八
第二章	皮膚病ノ治療ニ就テ	八
第三章	軍隊ニ多發スル外被病ニ就テ	一五
第一	白癬ニ就テ	一六

(ト)	(ヘ)	(ホ)	(ニ)	(ハ)	(ロ)	(イ)	第三	(ロ)	(イ)	第二	(ヘ)	(ホ)	(ニ)	(ハ)	(ロ)	(イ)
尋常性鬚瘡(毛瘡)	深膿疱	汗腺炎	尋常性瘰癧	毛囊炎	癰及癰	膿疱疹	化膿菌ニ因スル皮膚病ニ就テ	起炎體ニ就テ	皮膚炎及濕疹ニ就テ	濕疹ニ就テ	手足部深在性白癬	頑癬	寄生性匐行疹	顔面深在性白癬	頭部深在性白癬	頭部表在性白癬
三二	三一	三〇	二九	二九	二八	二六	二五	二三	二一	一九	一八	一七	一七	一七	一七	一六

(チ)

頭部乳頭狀皮膚炎

三一

第四 凍傷

三二

第五 靴傷(省略)

三二

第六 疥癬

三二

第七 多形滲出性紅斑

三三

第八 結節性紅斑

三三

第九 癩風

三三

第十 ジベル氏蓋微色粒糠疹

三三

第十一 汗疱疹

三三

第十二 圓形禿髮症

三四

第四章 選兵上顧慮ヲ要スル皮膚病ニ就テ

三四

第一 癩

三六

第二 皮膚結核

三八

(イ) 尋常性狼瘡

三九

(ロ) 皮膚疣狀結核

四〇

(ハ) 潰瘍性粟粒結核

四一

(ニ) 皮膚腺病

四一

	バザン氏硬結性紅斑	四一
(ホ)	腺病性苔癬	四二
(ヘ)	壞疽性丘疹狀結核疹	四二
(ト)	汎發性鞏皮症	四三
第三	先天性白皮症	四三
第四	魚鱗癬	四三
第五	慢性濕疹	四三
第六	癢疹	四四
第七	皮膚癢痒症	四四
第八	天疱瘡	四四
第九	チューリング氏疱疹狀皮膚炎	四四
第十	尋常性鱗屑疹	四四
第十一	慢性苔癬狀皰糠疹	四四
第十二	ヘブラ氏紅色皰糠疹	四五
第十三	先天性手掌足蹼角化症	四五
第十四	色素性乾皮症	四五
第十五	花柳病ニ就テ	四六

第一	軟性下疳及硬性下疳ノ類症鑑別	四六
第二	「スピロヘーテ」検査法及微毎トワ氏反應	四七
第三	微毒ノ療法	五〇
第四	軟性下疳及其合併症ノ療法	五四
第五	痲病	五五
第六	急性尿道痲ノ療法	五七
第七	慢性痲疾	六一
第八	痲疾ノ合併症及其療法	六二
第六章	花柳病ノ統計並痲疾療法ニ就テ	六五
第七章	微毒頓挫療法及其他ノ注意	七三
附 錄		

軍隊ニ於ケル花柳病豫防ニ就テ	八三
(A) 陸軍ニ於ケル花柳病ニ就テ	八三
一、帝國陸軍ニ於ケル花柳病ノ消長	八三
二、歐米陸軍ノ花柳病ト帝國陸軍ノ花柳病トノ比較	八四
三、各國陸軍ニ於ケル梅毒・痲病・軟性下疳ノ比率	八六
四、戰時陸軍ニ於ケル花柳病	八七

(B)	國民ノ花柳病ニ就テ	八八
	一、壯丁検査ヨリ觀タル花柳病其他	八八
	二、戦時及戦後ニ於ケル國民ノ花柳病	九二
(C)	軍隊ノ花柳病豫防ニ就テ	九八

皮膚及花柳病講義錄

陸軍二等軍醫正 小池 正 晁 述

第一章 皮膚病ノ診斷ニ就テ

皮膚病ノ診斷ハ客觀的ニ症狀ヲ目撃シ得ルヲ以テ其定型的ノ場合ニハ比較的容易ナリ然レトモ續發症狀ヲ呈シ來ルカ或ハ定型的ノ症狀ヲ失ヒカカリシ様ノ場合ニハ診斷困難トナルコトアリ要スルニ細心其ノ初發症狀或ハ原發疹ニ注意シ續發症狀ノ爲ニ誤診ヲ來スヲ避ケ又一局部ノミナラス全身ヲ注意シテ見ルヲ要ス以下項ヲ別チテ皮膚病診斷上ノ注意ヲ述ヘン

第一 病歴ニ就テ

病歴ハ勿論診斷上參考トナル點ハ多イ然シナカラ取捨宜シキヲ得サルトキハ爲ニ誤診ヲ致シ易キヲ以テ初學者ハ患部ヲ大體視診シタ後ニ病歴ヲ聽取ルカヨイ

病歴トシテ聽取スヘキ事ハ先ツ(1)「最初何處ニ始ツタカ」「何時頃カラ」而シテ(2)「最初ノ症狀ハドー云フ風テアツタカ」(3)「其後ノ經過ハドー云フ風テアツタカ」(4)「癢痒カアルカ否ヤ」(5)「今迄ニコウ云フ様ナ病氣ニ罹ツタ事カアルカ」(6)「何カ今度ノ病氣ニ對シテ藥ヲ使ツタカ」或ハ「コノ病氣ニナル前何カ藥ヲ飲ンタコトカアルカ」ト云フ様ニ聽クカヨイ

上記ノ質問ニヨリ吾人ハ如何ナル部位カラドー云フ風ナ症狀テ始ツタカ急性ニ出來タカ慢性ニ段々ト擴カツタカト云フ事カ分ル又本病カ限局性ニ止マル傾向カアルカ或ハ瀰蔓性ニ擴カルトカ或ハ散在性ニ來ツタカト云フ事モ分ル且ツ何カ内服或ハ外用藥ヲ用ヒテ其發疹原因ヲナシタカ或ハ其レカ發疹ノ型ニ影響ヲ來シテハ居ナイカト云フコトモ見當カ付ク其外再發シ易イモノカ否カモ分ルノテアル次ニ自覺的ニ癢アルヤ否ヤヲ知ルノモ診斷上ノ參考トナル例ヘハ濕疹ヤ白癬等テハ普通癢カアルカ梅毒ノ發疹等テハ之ヲ缺クコトカ多い

尙ホ病歴以外テハアルカ藥殊ニ外用藥ニヨリ皮膚炎ヲ起ス傾向カアルヤ否ヤモ知ル必要カアル之ハ治療上ノ必要カラテアル

第二 全身ヲ診察スルコト

皮膚症狀ノ一局部ノミヲ視ルトキハ前ニモ申述ヘタ通り誤診シ易イ例ヘハ手指間等ニ膿疱ヲ呈シテル疥癬患者カアルトスル、カカル場合ニ全身ヲ見テ其特徵アル部位或ハ發疹ノ狀況ヲ知レハ診斷ハ容易テアルカ單ニ外ニ出テル手腕部ノミヲ見テ診斷ヲ附スルト膿疱疹或ハ膿菌ニ因スル皮膚病ト誤ルコトカ多い又頭髮部ニ限局性ノ鱗屑アル發疹或ハ痂皮ヲ有スル限局性發疹例ヘハ乾癬(鱗屑疹)カ來ルトスル此ノ場合ニ頭髮部タケヲ見ルト結痂性濕疹或ハ脂漏性濕疹或ハ白癬等ト誤ルコトカ多い此ノ場合ニ全身ヲ見ルト脊部ニ原發疹カアツタリ臀部ヤ其他關節面ニ同様ナ發疹カアツテ乾癬ト云フ診斷ヲ容易ニ附ケルコトカ出來ル場合カ多い其他例ヲ舉クレハ澤山アルカ要スルニ決シテ一局部ノミヲ見テ輕卒ニ診斷ヲ附シテハイケナイ必ス全身ヲ見ルト云フ風ニ心掛ケルコトカ必要テアル是レハ初學者ニ於テ其必要ヲ認メル

ノミナラス一般ノ原則テアル

第三 痂皮ニ就テ

痂皮ニ就テ述フル前ニ一寸皮膚ノ生理ニ就テ一言シタイ皮膚ノ構造ハ成書ニアル通りテ基底細胞層カラ新生シタモノカ漸次上方ニ行キツツアル間ニ退行變性ヲシテ最上層ノ角層ト成ルノテアル而シテ此ノ基底細胞層ニ何等カノ原因テ刺戟カ來レハ其核分裂力異常ニ旺盛トナリ角質ノ部分カ所謂鱗屑トナリ落屑狀ニ成リ來リ所謂秕糠疹ヲ發生スルカ之ハ常態ニ於テハ認ムルコトカ出來ナイ其外病的ニナレハ不全角化、角層増殖、表皮剝離、丘疹、漿液性丘疹、結節、尋麻疹、水疱、膿疱、潰瘍等ヲ發生ス是等ノ病的變化カ痂皮形成ニ關係アルモノナリ次ニ話ハ皮膚ノ生理ニ戻ツテ皮膚ヨリノ分泌ハ主トシテ脂腺及汗腺之ヲ行ヒ脂腺ハ主トシテ「グリセリン」、脂肪酸、「コレステリン」ヨリ成ルモノヲ分泌シ汗腺ハ主トシテ水分(少量ノ固形物即食鹽、尿素、脂肪等ヲ含ム)ヲ分泌ス次ニ尙ホ痂皮ニ關係ノアル事項ハ皮膚、角層ノ性狀ナリ角層ハ表皮最上層ニ位置シ數多ノ扁平層ヨリ成リ無色又ハ帶黃色ヲ呈シ透性ヲ有ス而シテ本細胞ハ生活機能ヲ失ヘルモノニシテ角質ヨリ成リ通常既ニ核、原形質等ヲ失ヒ所謂角脂ニ依テ浸潤セラレテ存ス角脂トハ「コレステリン脂肪」ヨリ成リ「ケラチン」ノ變化セシモノナリ要スルニ角層ハ角板ノ集合ニシテ鱗屑、垢等ト成リ排出サルル運命ニアリ次ニ尙ホ痂皮ト關係アル皮膚、病、理ニ就テ一言スレハ皮膚面ニ何等カノ缺損ヲ致シ分泌異常ヲ來ス場合例ヘハ表皮剝離潰瘍等ノ如キモノヲ來セシ場合或ハ皮膚ニ炎衝ヲ來セシ場合ニ紅斑、濕潤、丘疹、結節等ヲ致シ其結果痂皮ヲ致シ得ルコトハ明ナリ其他水疱、膿疱等ガ破壊シ其レヨリ痂皮ヲ發生シ得ヘシ

諸君ハ皮膚ノ病理ニ就キ成書ヲ研究シアルヲ要ス丘疹或ハ蕁麻疹其他ノ症狀ハ其病理ヲ知レハ其症狀モ自ラ明瞭トナルヘシ是等基本トナルヘキ症狀ハ診斷上極メテ必要ナルヲ以テ深ク研究シアルヲ要ス皮膚面ニアル結痂ハ硬キモノアリ軟ナルアリ或ハ流動性ノモノモ存ス硬キ痂皮ハ多ク角質細胞ヨリ成リ流動性或ハ軟和ノモノハ血清、膿或ハ血液ヨリ成ル然シ是等軟和ノモノモ乾燥スレハ硬固ト成リ得ヘキコトハ明ナリ

角質細胞ノ集積ハ所謂鱗屑ヲ形成シ流動性物ノ乾燥シタ殘渣カ所謂痂皮ヲ作ルノテアル痂皮或ハ結痂カ發疹ヲ被ヒ以テ原疹ヲ匿クス場合モアリ又結痂カ多ク角質細胞ヨリ成立シアレハ白色或ハ光澤アル鱗屑ヲ呈シ且ツ皮膚ニ固着セル場合ト然ラサルモノトアリ若シ痂皮ニ血清ヲ混スレハ黃色ヲ呈シ長時間皮膚面ニ存在スレハ汚穢白色或ハ黑色ヲ呈ス次ニ血漿性滲出物ハ最初ハ流動性ナルモ乾燥セハ黃色ヲ呈シ且ツ透明性ヲ有シ樹脂狀ノ痂トナル之ヲ除去セハ其下ニ潮紅濕潤面ヲ存シ再ヒ漿液性物ヲ分泌スヘシ

水疱カ乾燥スレハ硬キ褐色ノ痂皮ヲ作ル之ハ表皮ノ一部ト滲出液トカ一絡ニナツタモノテアル膿或ハ膿疱カ固マレハ前記ト同様ナル痂ヲ作ル潰瘍上ニ痂皮ヲ以テ被フテルコトモアル即潰瘍カラ出ル滲出液、膿、血液或ハ壞死セル組織ノ一部ヨリ成立シ黃褐色或ハ暗褐色乃至煉瓦色ヲ呈ス往々痂皮ヲ除キ其下ニ始メテ潰瘍ノアルコトヲ知ル場合アリ

血液カ痂ヲ作レハ赤褐色乃至黑色ヲ呈ス癰破セシ跡ニ血痂ヲ見ルカ如シ次ニ又菌塊カ痂ヲ作ル場合アリ例ヘハ黃癬ノ場合黃癬菌甲カ一見膿痂ノ如キ狀ヲ呈スルカ如シ

第四 皮膚ノ色調ニ就テ

人種ニ依リ色調ヲ異ニシ又初生兒ハ大變血色カヨイ等ハ周知ノ事實テアル是等色澤ノ變化ハ如何ナル理由テ來ルカト云ヘハ血液及色素ノ關係カ主トシテ原因ヲナシテルノテアル換言スレハ皮膚ノ色澤ハ(一)表皮ノ透明、(二)血液、(三)色素ノ三ヨリ主トシテ構成セラルモノテアル

白色人種ヤ初生兒ニ於テハ血液カ多クノ影響ヲ與ヘ黃色人種ヤ黑色人種ハ表皮ノ透明度竝ニ色素カ大ナル影響ヲ與ヘテル元來表皮ハ無色ナルモ種々ノ影響(光線、年齡、色素等)ニ依リ其透明度ヲ變化シ殊ニ光線ノ影響ハ大ナリ次ニ色素モ亦光線ノ影響大ニシテ表皮中ノ色素ハ基底細胞層テ發生シ光線殊ニ紫外線ノ如キ化學的光線ノ刺激ニヨリ血液トハ關係ナク基底細胞ノ核ヨリ色素ヲ成生シ得、是レ生理的自衛的作用ノ然ラシムル所ニシテ自ラ色ヲ黒クシテ光線ノ體內ニ侵入スルヲ防ク所以ナリ蓋シ光線ハ程度ヲ越フレハ有毒ナルモノナレハナリ(表皮細胞ノ先天性色素發生能力ハ人種、個人、身體ノ部位、年齡或ハ妊娠等ノ關係ニヨリ差異アリト知ルヘシ)

以上ハ生理的ノ色調變化ニ就テ述ヘシモノナルモ今病的ノ場合ヲ考フルト次ノ様ノコトカ考ヘラル

(一) 角層……之カ堆積スレハ黃褐色乃至垢色ヲ呈ス此ノ異常ノ角質ヲ除去スレハ皮膚ハ普通ノ色トナル即チ角化異常ノ爲メニ色調ヲ變化ス

(二) 角層カ漿液テ膨脹スレハ白色ヲ呈ス其他種子層或ハ乳頭部ニ漿液性浸潤ヲ來シタ場合其部分白色ヲ呈ス

(三) 表皮細胞層竝ニ眞皮ニ浸潤ヲ致ス場合例ヘハ丘疹結節等ノアル場合ニハ其部分紅色―褐色ヲ呈ス

是レ炎、衝性、浸潤ノ爲ニ集レル細胞ト血管増殖或ハ擴大トニヨリ生スルモノナリ

(四) 皮膚血管ノ充血擴張或ハ其他ノ増殖ヲ致ス場合皮膚ハ紅色ヲ呈ス

(五) 皮膚ノ色素異常ニヨリ皮膚ノ色ニ變化ヲ來ス先天性ニ來ル場合ト炎衝後ニ來ル場合ト其他ノ疾患

ニヨリ來ル場合トアリ

(六) 皮膚ニ出血アル場合…赤色乃至黑褐色黃色等ヲ呈ス

(七) 皮膚萎縮或ハ硬化等ニヨリ色澤ノ變化ヲ致ス場合アリ

第五 皮膚ノ隆起ニ就テ

皮膚ノ隆起ハ概ネ次ノ各項ニ依ツテ來リ得ルモノナリ

(一) 鱗屑ノ集合

(二) 表皮中ノ水疱

(三) 表皮竝ニ眞皮ノ炎衝性細胞浸潤(殊ニ乳頭部)

(四) 皮膚ノ腫瘍

(五) 皮膚附屬機關ノ炎衝

(六) 皮下組織ノ炎衝或ハ腫瘍

皮膚ノ隆起ニハ限局性ノ場合ト然ラサル場合トアリ表皮肥厚シ限局シテ皮膚面ヨリ隆起セルモノヲ丘疹ト稱シ多クハ小ニシテ大ナルモノヲ結節ト稱ス、カカル場合ニハ表皮ノミナラス眞皮ニモ亦變化アリ

蕁麻疹トハ急性ニ發生シ又消失スル皮膚ノ限局性浮腫ナリ換言スレハ種子層或ハ乳頭部ニ來レル一時性

漿液性浸潤ナリ次ニ水泡トハ表皮中ニ所謂貯水池ヲ發生シタルモノヲ謂フ

第六 潰瘍ニ就テ

潰瘍ト稱スルハ皮膚乳頭部ノ毀損セラレシモノヲ謂ヒ其治癒ハ必ス瘢痕ヲ呈ス然ラサルモノハ單ナル表皮剝離ナリ

粘膜ニ於テハ容易ニ表皮剝離ヲ來シ得ヘク若シ單ニ角層ヲ失ヘハ局所ノ表面ハ濕潤シ炎衝性潮紅ヲ呈ス若シ粘膜表皮ノ深部即チ種子層迄剝離セハ反ツテ局部ハ白色乃至黃色ノ調ヲ呈シ表面ヲ拭ヘハ容易ニ出血スヘシ若シ粘膜ノ全表皮ヲ失ヘハ容易ニ出血シ紅色ノ眞皮ヲ認ムヘシ次ニ癢破ノ爲ニ往々皮膚表皮ノ各層ヲ失ヒ出血ヲ伴フコトアリ是等ノ場合(前二項)ニハ潰瘍ト稱セス單ニ表皮剝離或ハ糜爛ト稱セリ(乳頭部ノ消失アルモ)然ラハ潰瘍ノ定義如何

潰瘍トハ前記ノ如ク眞皮ニ及ホセシ變化ナルモ潰瘍ト稱シ得ルハ眞皮ニ缺損ヲ來シ尋テ組織ノ壞疽ヲ來シ稍、大ナル組織缺損ヲ呈スルモノヲ謂フ診斷上潰瘍ノ底面、側縁ノ觀察ハ必要ナル事項タリ

第七 發疹ノ新舊鑑別ニ就テ

發疹ノ新舊ハ概ネ次ノ各項ニ據リ知リ得ヘシ

(一) 發疹ノ大小……小ナル程新シキ發疹ト知ルヘシ但シ發疹カ消失スル場合ニモ亦小トナルハ明ナ

リ然シ此場合ニハ退行シ行ク他ノ徵候アリ

(二) 炎衝症候……最初ハ色新鮮ニシテ紅シ後ニハ漸次消褪スルガ普通ナリ次ニ浸潤ノ大小モ亦參

考トナルヘシ

- (三) 浮腫……………最初ハ大ナリ其退行ハ通常充血ヨリ先行ス
- (四) 表皮剝脫……………即チ退行期ニハ表皮剝脫ヲ來スヲ以テ本症アルモノハ陳舊性ノモノト知ルヘシ

第八 觸疹ニ就テ

皮膚病診斷上ノ注意ハ前記注意事項以外發疹ノ觸診モ亦必要事項タリ觸診ニ依ツテ皮膚面ノ粗糙、角化異常、乾燥、硬軟、彈力性、溫熱等ヲ知り又浮腫ノ存在、病竈ノ位置、其他周圍トノ關係等ヲ知り得ヘシ

第九 結論

皮膚病ノ診斷ハ一般ニ困難ナリト云ハルルモ各病ノ特徵(發疹及部位等)ヲ記憶シ續發症狀ニ誤ラセラルコト無ク前述セシ諸注意ヲ忘ルルナクンハ其診斷ハ蓋シ容易ナルモノナリ而シテ皮膚病ト内科病トノ關係其他ノ關係アル疾患等モ常ニ念頭ニ置カサルヘカラス

第二章 皮膚病ノ治療ニ就テ

皮膚病ノ治療ニ就テハ創傷治療ノ基本タル無菌の操作ノ趣旨ヲ常ニ念頭ニ置クヲ要ス炎症性皮膚疾患ハ外來的刺戟殊ニ膿菌ニ依リ二次的傳染ヲ發生シ易ク殊ニ潰瘍其他眞皮以下ノ露出セル場合ニ於テハ其必要ナルコト絶對的ナリ

皮膚疾患ノ療法ヲ大別シテ藥物的療法、並、理學的療法トナス

藥物療法中内用劑等ヲ除キ茲ニ主トシテ膏藥療法ニ就テノ注意ヲ述ヘント欲ス